

1 研究主題

| 教科等 | 研 究 主 題 |
|-----|---|
| 国語科 | 一人ひとりが自分の考えを表現し、 周囲とつながりを深めるための国語科指導をめざして ～単元を貫く言語活動を生かし、児童の主体性や表現力を高める授業の創造～ |

2 主題設定の理由

本校では、これまで「ユニバーサルデザイン（UD）の視点を取り入れた授業づくり」に取り組んできており、算数科を窓口として研究を深めてきた。しかし新学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」の視点で見つめ直すと、本校児童の課題として、「自分の考えを持つこと」「自分の考えを他者に伝えること」「他者との交流を通して自分の考えを深めること」を苦手とする児童が多く、系統的な指導も十分ではないことが課題として浮かび上がってきた。

そこで昨年度から、「一人ひとりの子どもが自分の考えを表現し、周囲とのつながりを深めていける」ことを目指し、国語科を窓口として、研究を進めていくことにした。

1年目の昨年度は、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりを工夫する中で、「単元を貫く言語活動」について学び、国語科の単元の構造化や、児童の意欲を引き出す授業について検討を重ねてきた。

「単元を貫く言語活動」を取り入れることで、導入時に学習のゴール（目指す姿）を示すことを意識するようになり、教師も児童も見通しを持って学習を進めることができるようになってきた。また、目指す姿が明確になっていることで、意欲的に学習に取り組む児童が増え、自分の考えに自信を持って発表をしたり、文章で表現したりすることにもつながっていった。

しかし窓口が国語科に代わったことで、単元作りに重点が置かれ、本校の財産であるUDの4つの要件（「焦点化」「視覚化」「共有化」「作業化」）をどのように授業に組み込んでいくかについては、まだまだはっきりしないことが多い。

「焦点化」「視覚化」は、学習課題や板書をシンプルにすることで、誰にもわかりやすい授業づくりにつながる。また「共有化」「作業化」は多様な話し合い活動や学習を展開することになる。

これらのUDの4つの要件を「単元を貫く言語活動」に組み入れていくことで、より児童が主体的に学習に取り組むようになり、表現力を高めることにもつながっていくのではないかと考え、本主題を設定した。

3 研究の内容と方法

1 単元を貫く言語活動の充実

学習のゴール（目指す姿）を導入時に示し、つけたい力と活動を授業構想に位置づけながら学習を進めていく。児童自らの課題解決に向けた活動になるよう工夫する。

言語活動の例

| 言語活動 | | 身に付けられる言語能力 |
|---|--|--|
| 演 じ る | 劇 | 登場人物になりきって動けます。登場人物の行動を動作かすることによって心情や情景を想像しやすくなります。描写に動きのあるものはやりやすいです。 |
| | ペープ サート | 両面に登場人物の絵を描いて持ち手の棒などに付けて演じます。主にお話の筋に合わせて反転させて、お話や絵の変化などを楽しむものです。 |
| 紹 介 す る ・ 推 薦 す る | 本のおび | 表紙・背表紙・裏表紙にそれぞれ推薦の言葉がかけ、本に巻き付けて転じできます。三つの場所に書く内容を考えさせることが紹介の観点を考えることにつながります。 |
| | ポップ | キャッチコピーのように短い言葉で人を引きつけるために、紹介に必要な言葉を考えながら読むことができます。 |
| | 推薦文 | 感銘を受けたところはどこか、本を読むことによって自分の考えがどう深まったかを明確にすることができます。 |
| | 読書 ポスター | 心に残った場面、言葉を絵と文で表現できます。どの部分を切り取るか考えることで引用・要約の力がつきます。 |
| | 本のショーウ ィンドウ | 魅力的な場面やあらすじなど項目ごとに書いていき、本を紹介するツールです。指導事項と関連させて、項目を考えるとよいでしょう。項目を変えることによってどの学年でもできます。 |
| | リーフ レット | 一枚紙のもの。二つ折り、三つ折りなど折り方をかえることで構成の工夫ができます。どのような項目にするかを指導事項と関連づけて考えるとよいでしょう。 |
| | パンフレット | 複数ページに及びかつ簡易的に綴じられたもの。どのような項目にするかを指導事項と関連づけて考えるとよいでしょう。 |
| | ブック トーク | ある一つのテーマに沿って数冊の本を順序立てて紹介する、図書館の紹介方法の一つです。聞き手に、本に対する興味を起こさせる目的で行います。 |
| はがき 新聞 | はがきサイズという限られた紙面で自分の考えを伝えることができます。新聞の形式のようにタイトル・見出し・本文・カットなどを入れ、表現できます。 | |
| 創 作 す る | 手紙を書く | 相手意識を持ち、伝えたいことを明確にして書くために、どんなことをつたえたいかによって読みの観点を変えて読むことができます。 |
| | 続きを書く | 続きを書くために、場面や登場人物の設定、作者の書きぶりなどを考えながら読むことができます。 |

★「どんな力を付けるのか?」「どのような言語活動を仕組むのか?」を指導者自身が明確にすることで、自ずと学習者も指導者もワクワクするような単元名になる。

○昨年度実践 単元名

- ・「うみのかくれんぼ」 かくれんぼクイズをして生きもののひみつをおしえよう（1年）
- ・「お手紙」 2年生音読劇場をひらこう！！（2年）
- ・「たから島のぼうけん」 組み立てにそって物語を書こう（3年）
- ・「アップとルーズで伝える」（4年）
カメラマンになりきって、写真や文章で伝えよう！～仕事リーフレットを作ろう～
- ・「大造じいさんとガン」（5年）
すぐれた表現に着目して、物語のみりよくを伝え合おう
- ・「本は友達」 おすすめの本を紹介しよう（6年）

○“～たくなる” 単元名の例

- ・「きいて、きいて、きいてみよう」（5年）
トークセッションで、あの人の魅力を引き出そう！伝えよう！！
- ・「次への一歩ー活動報告書」（5年）
○○（←係活動、そうじ、給食）改造プロジェクト2016
- ・「カレーライス」（6年）
タイトルの意味を考え、登場人物に寄り添って読もう
- ・「やまなし」（6年）
賢治ワールドへようこそ！～わたしのとらえる宮沢賢治とその作品～

2 UDの4つの要件（「焦点化」「視覚化」「共有化」「作業化」）の組込

単元のどの段階で、どの要件を取り入れて授業を構成していくと、児童の主体性や表現力を高める効果的な学習ができるのかを検証していく。

